

From Ibigawa S A B O

～ 日頃の備え・早めの避難が重要です ～ 6月は土砂災害防止月間

地球温暖化に伴う気候変動により、熱帯低気圧の強度が増大するとともに、大雨の頻度も増加する可能性が高く、土砂災害の増加、激甚化が懸念されています。昨年も全国各地で土砂災害が多発し、死者50名、行方不明者3名を数え、未だ被災地に深い傷跡を残しています。中国地方に甚大な被害を与えた7月17日からの大雨や、8月9日からの東北地方を中心とする大雨、10月の台風26号による伊豆大島の激甚な土砂災害による被害は、土砂災害対策の重要性を改めて認識させることとなりました。

国土交通省と各都道府県では、昭和58年から毎年6月を「土砂災害防止月間」として、土砂災害の防止と被害の軽減を図るための各種活動を実施しています。今年度は土砂災害に対する住民の方の意識や警戒避難・情報伝達体制の確認、住民参加を主とする諸行事・活動及び砂防関係工事における安全確保に重点を置き、住民の方や自主防災組織、砂防ボランティア等の各種団体等と連携を図りながら、関係団体の緊密な協力を得て、様々な取り組みが実施されます。

揖斐川上流域は土砂災害が発生しやすい地域

揖斐川上流域は、根尾谷断層をはじめとする多くの断層が走っており、荒廃地が多く、非常に脆弱な地質を有する地域で、過去には河道閉塞を伴う大規模崩壊が何度も発生しています。また、この地域の年平均降雨量は3,000mmを超える日本有数の多雨多雪地帯です。降った雨は標高1,300m前後から一気に標高50m程度まで流下し、V字谷を形成している急流河川の河岸には集落が点在し、谷底に国道や鉄道が走る土砂災害に対して弱い生活基盤を形成している地域です。

昨年こそ当地域では土砂災害が発生しませんでした。近年でも、平成18年に発生した東横山の地すべり災害や平成20年9月の西濃豪雨による同時多発的な土砂災害、平成22年1月の融雪による八草川左岸の山腹崩壊、平成23年8月の集中豪雨による越波谷での土石流発生、平成24年9月の台風16号によるギラ谷での土石流による土砂災害など、毎年のように土砂災害が発生しています。土砂災害防止月間を機に、もう一度、身近に潜む土砂災害の危険性について確認しましょう。



平成26年度 土砂災害防止月間ポスター



下谷で発生した土砂災害 (H20.9)



ギラ谷の土石流流下跡 (H24.9)

土石流



地すべり



がけ崩れ



土砂災害の主な前兆現象

“もしこんな現象を見たら…聞こえたら…”

土砂災害の危険が迫っています！できるだけ早く周りの人と安全な場所に避難する共に、市役所や役場など最寄りの公的機関や越美山系砂防事務所(又は、最寄りの国土交通省の砂防事業担当事務所)に連絡をお願いします。

【土石流】

- ・ゴォーと山鳴りがする
- ・雨が降りつづいているのに川の水が減っている
- ・川の水が急に濁ったり木が流れてきた

【地すべり】

- ・地面にひび割れができる
- ・溪流や井戸の水が濁る
- ・斜面から水がふき出す

【がけ崩れ】

- ・がけに割れ目が見える
- ・がけから小石がばらばらと落ちてくる
- ・がけから水が湧き出している
- ・がけから木の根がプチプチと切れる音がある

出水期を控えたこの時期は、様々な地域で水防などに関する訓練が行われています。越美山系砂防事務所では風水害による土砂災害を想定した洪水対応演習を実施し、三重県で催された木曾三川連合水防演習にも事務所職員が参加しました。

大規模災害時の対応を訓練

5月14日に事務所で洪水対応演習を実施しました。大規模な風水害を想定して、支部室の設営から始まり、整備局及び地元関係機関との情報伝達の流れを確認すると共に、被害状況の把握や応急復旧工法の検討などを行いました。

限られた時間で演習を行う事もあり、シナリオも用意してありましたが、自然災害は想定外の事が起こるもの。演習の途中で様々な状況が付与され、参加者は右往左往しながら対処していききました。その中で見つかった課題や改善点を修正するとともに、日頃から災害対応のイメージをより鮮明にして、「もしも」の事態に備えていきます。



付与された状況に慌てて対応する訓練参加者

揖斐川流域クリーン大作戦に参加

5月25日に「2014 揖斐川流域 クリーン大作戦」が開催され、事務所職員は揖斐川会場へ、また各工事受注業者の技術者や作業員の方も最寄りの会場へ参加しました。

揖斐川会場では、地域住民の方や中学生など大勢の方が清掃活動に精を出していました。空き缶やペットボトル等、様々なゴミがありました。特に気になったのはタバコの吸い殻です。火がついたまま捨てると、河川敷や堤防の草に燃え広がって大火事になる恐れもあります。1人1人の心がけ次第で、ゴミは確実に少なくなります。きれいな川を次の世代に残して行く事が私達の使命です。



職員は岡島橋付近で参加



業者さんも最寄りの会場で参加

木曾三川連合水防演習に参加

5月18日に木曾三川連合水防演習が催されました。国、自治体、警察、消防、自衛隊等の防災関係機関と地域住民が連携して大規模災害に対する訓練を行うもので、毎年開催されており、今年は三重県が会場となりました。

いなべ市のサテライト会場では大規模土砂災害を想定した訓練が行われ、中部地方整備局としてはヘリによる被害状況調査等の訓練を行い、事務所職員は展示ブースで土砂災害を説明する模型等を用いて、土砂災害の状況やその対策について来場者へ説明を行いました。会場には多くの来場者が詰め掛けるとともに、有線テレビにより土砂災害模型の説明状況が放映され、多くの市民の方に土砂災害の危険や避難の重要性を伝えることが出来ました。



被害状況の把握のためヘリに乗り込む地整職員



子供の目線に立って説明する村上技官

切土法面の安定化に向けて =高地谷=

揖斐川町小津地先で工事を行う高地谷第1砂防堰堤道路工事(施工:西濃建設(株))は、林道の付け替えに伴う崩壊跡地の安定化を行っています。この崩壊跡地では擾乱帯(じょうらんたい:断層運動が繰り返され激しく乱された地質構造のこと)が確認されたため、鉄筋挿入による法面の安定化を行っています。

鉄筋挿入を行うに当たり、作業員の方は親綱を頼りに何時間も吊り下がった状態で作業を行います。作業員の方にとっては慣れた作業とはいえ頭が下がります。



親綱を頼りに斜面で作業

黄金色に輝く大地

地域の麦が収穫の時期を迎えています。麦にとって「実りの秋」の季節のため、この時期が「麦秋」と呼ばれています。梅雨入りする前に収穫をする農家が多く、麦秋の風景を眺めることができる期間もあと少しです。



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel:0585-22-3526 Fax:0585-22-6626
E-mail: ibigawasabo@cbr.mlit.go.jp